

# 関西学院がめざす

# 「国際化」とは

ルース・M・グラーベル  
(関西学院院長)

マーティン・コリック  
(関西学院大学副学長〈国際戦略担当〉)

伊藤 正一  
(国際学部開設準備室長)

関西学院は創立以来、「世界市民」として国際社会に貢献する人材を育成、輩出してきました。2010年、関西学院大学に第11番目の学部となる国際学部が新設され、さらには大阪府箕面市にある千里国際学園との合併(予定)により、さらなる国際化に向けて新しい一歩を踏み出します。そこで今回、グラーベル院長、コリック副学長、伊藤国際学部開設準備室長にお集まりいただき、関西学院がめざす「国際化」について語っていただきました。



伊藤 正一

ルース・M・グラーベル

マーティン・コリック

## 2010年は 関学の国際化にとって特別な年

—— 関西学院のスクール・モットーである  
“Mastery for Service”の精神を国際化に  
向けてどのように生かし、発展させていく  
のか。また、学院にとって国際化を進めて  
いくことについて伺います。

**グループ** 関西学院の創立者で医療宣  
教師として世界で活躍されたランバス博士  
をはじめ、関西学院には国際的な視野を  
持つ教員・職員・学生が集ってきた歴史が



あります。2010年は関西学院にとって、  
さらに国際化が進む年になります。大学  
は国際学部を新設し、学院としては千里  
国際学園と合併する予定です。また、  
2009年から推進している新基本構想  
における国際戦略が具現化される予定  
です。創立当初からの国際的な精神や  
世界市民の育成を受け継ぎ、“Mastery  
for Service”を生かした21世紀にふさわ  
しい関西学院の形をつくりあげていきたく  
と思っております。

### 海外拠点を増やし 世界中に関学ネットワークを

—— 海外拠点としては現在、吉林大学、  
トロント／ビクトリア大学と2つの拠点が  
開設されていますが、開設の目的や今後  
の拠点拡充についてはいかがですか。

**コリック** 吉林大学とは、ここ二十数年、  
教員の交流が盛んですし、近年は日中経済  
シンポジウムなどの国際的な産学官民  
連携活動を一緒に展開しています。カナダ  
については、元々、関西学院大学は西日本の  
カナダ研究の拠点として、カナダ政府から  
高い評価を受けています。また、現在年に

約2000人の学生がカナダに留学して  
いますが、その数は2011年度時点で  
400人となり、その後も増える見込み  
です。これだけ多くの学生がカナダに  
いる以上は現地サポートの体制も必要と考  
え、オフィスを設けました。しかし、私  
はこうしたオフィスだけが海外の拠点の  
あり方だとは考えていません。世界各  
地で活躍されている同窓の皆さんとの  
ネットワークを強め、さまざまな活  
動を一緒に展開していきたいと考  
えています。

### 関学の国際化の重要な柱となる 国際学部 — 取り組みと特長

—— 国際学部についてお聞かせください。  
**伊藤** 国際学部の特長は、日本との関係  
が密な北米（アメリカ、カナダなど）とアジア  
（東アジア全体・オーストラリア・ニュージー  
ランドなど）のような地域を焦点に置く  
ことです。国際学部では、国際的な問題・  
課題に対し、文化言語領域（宗教含む）、  
社会ガバナンス領域（政治外交・国際関係・  
社会論的なものを含む）、経済経営領域  
（会計学含む）といった多面的な観点から  
理解・分析できる学生を育成していく



ことが一番大きな特長です。語学教育については、1〜3年次まで90分授業を毎週4回実施。これは他学部比べて倍の授業量です。そして4年次でも週2回実施、というように継続していきます。また2年次には1ヶ月の短期留学、4ヶ月の中期留学、長期留学としての交換留学などにより原則として留学していただきます。関学に戻る頃には英語力が向上しているので、英語の授業(約80科目)にもスムーズに取り組めます。国際学部の英語の授業では、留学生と日本人学生が同じ空間で机を並べて勉強できます。海外に行くだけ

ではなく、大学に在ることによって自然と国際化が進んでいく環境は西日本でも珍しい。他学部の学生にも、ぜひ国際学部の授業に入ってきてもらいたいですね。

**コリック** 国際学部は、関学全体の国際化を飛躍的に進める起爆剤になります。たとえば、現在の関学の協定校は欧米に偏っていますが、アジアも重視する国際学部の誕生によって、アジアの大学との交流が促進されると期待しています。また、世界には、日本に興味があっても、日本語の授業が受けられるほどの語学力はない若者がたくさんいます。彼らにとって、多くの専門科目を英語で学べる国際学部の存在は、非常に魅力的です。世界から優秀な留学生が集ってくると思います。

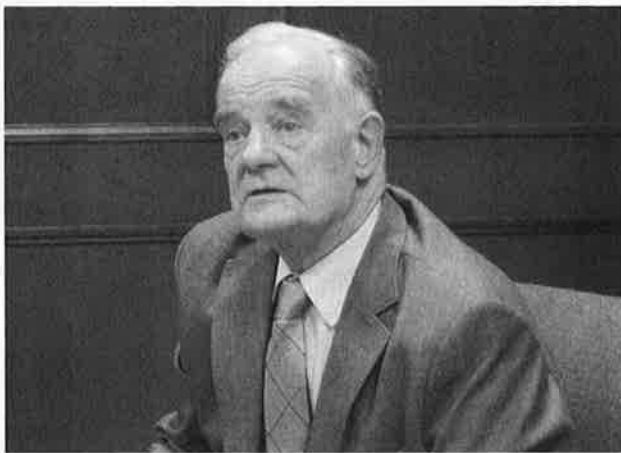
—— 総合政策学部との違いについては。

**伊藤** 既設の総合政策学部はその名の通り、国際面でも国際政策に重点を置きますが、国際学部は特に政策に重点を置くわけではない、ここが大きな違いです。教員の方々も、総合政策学部には国際機関や政府機関に勤めていた人が多いのですが、国際学部では研究者として来られた方々がほとんど。そういう意味でも国際的な課題を多面的な観点から理解・分析したい学生には国際学部をお勧めします。

—— 「貫教育」・「総合学園」の利点を生かし、早い段階から国際感覚を身につける

—— 千里国際学園との合併(予定)が及ぼす関西学院の国際化については。

**グルーベル** 関西学院の各学校には様々な国際的なプログラムがあります。例えば、初等部の「エルダーズシステム(※1)」。英語を母語としない留学生が初等部の児童と共に英語を勉強する姿を見せることで、児童らは刺激を受けます。今後ますます



留学生が増える中で、初等部だけではなく、中学部や高等部、また千里国際学園もこのプログラムに参加していただければと思います。初等部では6年次にカナダへホームステイ留学をする計画があり、カナダとの関係がより強くなりますし、中学部はインドとの交流が長く続いています。このような国際的なプログラムが学院全体に広がればと思います。

私が期待するキャンパスの国際化とは、どの科目でもグローバルな立場から物事を考えられるということ。例えば、日本ではこう考えるが、ブラジルではこう考え、ペルーでは別の考え方があるというように、自分だけの考え方に留まらない学習が理想的だと思います。そのきっかけをできるだけ多く増やすためのプログラムが必要です。そういう意味でも関西学院の「貫教育」、「総合学園」という点は本当に恵まれていますし、千里国際学園との合併(予定)によって、関西学院の国際化はさらに発展すると思います。

**コリック** 関西学院にとって「貫教育」は本当に大切な理念の一つです。私は大学の国際戦略本部長をしておりませんが、世界市民の育成には、もっと若い世代への働きかけも必要だと考えていますし、関学の

誇る貫教育体制をぜひ活用したい。学院と大学が連携を取って進めていきたい事柄の(二)に、開発教育(Development Education)があります。大学が力を入れている国連学生ボランティアプログラムに興味を持ち、積極的に参加してもらうためには子どもへの理解や国際協力への知識を深める開発教育を早い段階から導入することで、より

**伊藤** 国際学部としても国連ボランティアプログラムなどに積極的に参加する学生



が増えることは喜ばしいことです。すでにAO入試で合格した留学生の中にも国際的課題を体現しているような学生がおり、きつと日本の学生にもよい影響を与えていくのではないかと思います。関学で学んだ留学生が社会で貢献してくれば、大学にとってもまさに“Mastery for Service”ということになるのではと非常に期待しています。

—— 留学生が関西学院大学卒業生として各国で活躍していただくためにも、同窓会の海外ネットワークとの連携が重要になりますね。

**コリック** 彼らが帰国してからも、関学の卒業生、関学ファミリーの一員として活躍していただくことは、関学の国際化に直接繋がります。

**伊藤** さらにそれを関学の魅力として、新しい留学生を受け入れたいですね。

### 世界市民であるために

—— 日本の関学卒業生が世界で活躍することについて期待されている部分は、

**グローバル** 世界の国際機関や企業の国際的な部署など華々しい場所で働いて

いる方もいますが、たとえ日本で一生を過ごすとしても、もの事をグローバルに広い視野で考えることを忘れないでほしい。それが、私の一番の願いです。自分の生活が地球の反対側に住む人とのように繋がっているのか、何を食べ、何を買うかによって海外の人の生活にどう影響するのかなどのように持続可能な将来を共につくりだしていくのか、を常に考えながら生きていくこと、それが「世界市民」であると思います。

**コリック** 「世界市民」とは、自分はまず人間であり、その次に日本人であるという考えが大切。私もグローバル先生も外国人ですが、やはり日本で外国人であるということは目立ちます。日本人全員から「外国人」という意識が消えること、それが真の国際化ではないでしょうか。「世界市民」になるには、「文化こそ違うけれども、同じ人間である」。このような深い意味での異文化理解が非常に大事です。

**伊藤** 先ほども申し上げましたが、国際学部での英語の授業においても、様々な国から来ている留学生と日本人学生が違和感を覚え、自然とお互い一緒に勉強している、そういう形が理想です。様々な

価値観を持つ人が集まると、当然摩擦も起こるでしょう。しかし、そういった中で互いに理解し合い、譲り合うという経験を、国際学部で積み重ねてほしいし、社会に出てもそのような感覚でいてもらいたいです。

——今後、国際学部が解決すべき課題はありますか。

**伊藤** 国際学部として留学生をもっと受け入れるとなると、寮の問題があります。現在、交換留学生はほぼホームステイしていますが、さらに受け入れ人数を増やすことで彼らの住居の確保が重要になってきます。また、留学生の日本語教育における大学側のキャパシティもまだまだ十分とは言えません。住居の問題、日本語教育、当面はこれらを充実させないといけません。また今後は入学の時期も、4月だけでなく9月入学も視野に入れる必要があります。いずれは9月の秋期入学が実現すれば、O I S（大阪インターナショナルスクール）の学生や海外の学生もスムーズに受け入れられるので、ぜひそのような体制を検討していきたいと思います。

**コリック** これらの課題については、我々が進めている「新中期計画（※2）」にも盛り

込んでいますので、ぜひ前向きに検討していきます。

——本日は、それぞれのお立場から貴重なご意見をいただきありがとうございます。ありがとうございました。

#### ※1 エルダース・システム

関学初等部の生徒が、中学部・高等部・大学の学生、あるいは外国人留学生とともに学習し、さまざまな行事・活動を体験する教育システム。“異年齢交流”や“異文化交流”を通して、人間関係や社会上のルール、助け合うことの大切さを学びます。

#### ※2 新中期計画

関西学院が今後10年間で到達する「あるべき姿」を実現するために策定された新基本構想の中の実施計画です。



座談会2

# 留学生から見た「国際教育」 関学の

関西学院大学では「Mastery for Service」を体現する世界市民」の育成をめざし、  
在学生をさまざまな国・地域の大学へ派遣するだけでなく、  
多くの留学生を受け入れ、国際性豊かなキャンパスを築いています。  
今回は、学位を取得するために来られた3名の正規留学生と、  
2名の交換留学生にお集まりいただき、彼らが学んでいることや  
関学に対する思いをお聞かせいただきました。  
そこには、関学がさらなる「国際化」を進める上での具体的なヒントが詰まっています。

**出席者** シュ・カさん (社会学部2年次、出身国:中国)  
エフゲーニー・キセリョフさん (大学院 商学研究科2年次、出身国:ロシア)  
バオカン・レファンさん (大学院 商学研究科2年次、出身国:ベトナム)  
リュウ・エンジェルさん (トロント大学からの交換留学生、出身国:カナダ)  
キム・ドウリさん (ソウル梨花女子大学からの交換留学生、出身国:韓国)

**司会・コーディネーター** 春木 紳輔 (関西学院大学 国際教育・協力課長)

## 勉強・研究していること

**春木** まずそれぞれの自己紹介を兼ねて、今どのような勉強・研究をされているのかを教えてください。

**シユ・カ** 中国の浙江省から来ました。社会学部2年次生で、主に統計・調査・数理社会学について勉強しています。

**エフゲーニー・キセリヨフ** ロシアから来ました。大学院の商学研究科2年次生です。則定先生のゼミに所属して、主に国際ビジネスについて研究しています。

**バオカン・レファン** ベトナム出身です。私も大学院の商学研究科2年次生です。和田先生のゼミで、主に地域ブランドの研究・開発について学んでいます。

**リュウ・エンジェル** カナダのトロント大学から来た交換留学生です。今はまだ



春木 紳輔

1学期目で、まずは日本語を中心に勉強しています。

**キム・ドウリ** 韓国のソウル梨花女子大学から交換留学生として来ました。韓国ではドイツ語及びドイツ文学、国際政治を専攻していました。日本に来てから、まず日本語を勉強した後、日本語のテストに合格して、現在は一部の授業を日本人学生と一緒に受けています。

### 留学先として日本そして

### 関西学院大学を選んだ理由

**春木** 皆さんが希望されていた留学先は、必ずしも日本だけではなくったと思います。その中で、なぜ日本を留学先にしたのか、そしてなぜ関西学を選んだのかについてお話をください。

**ドウリ** 私はドイツ語だけでなく日本語と英語も好きなので、アメリカで英語を学びたいという気持ちもありました。しかし、関学の学校案内を見て、この大学なら英語と日本語2つの言語を同時に学べることを知り、関学への留学を決めました。

**エンジェル** 私は高校の時から毎週末、日本語学校に通うほど日本語が好きで



リュウ・エンジェル

した。そして、もっと日本語が上手になりたいと思い、日本への留学を決心しました。関学を選んだのは、学校案内で知った「日本語パートナー制度(※1)」に魅力を感じたからです。未知の国に行くわけですから、友人づくりもゼロから始めなければなりません。そういう意味でも、この制度はすごく助かりました。

**カ** 私は元々日本のアニメーションが好きで、母国の大学でも日本語を専攻していました。その時に日本語を教えていただいた先生が、実は関学の社会学部出身だったのです。そして社会学の面白さを色々教えていただき、先生が学んだ関学に憧れを抱きました。本格的に関学への入学を決めたのは2006年の5〜6月頃です。

**春木** キセリヨフさんは国費留学生と

してロシア大使館の推薦で来られたので  
すね。

**キセリヨフ** 高校卒業後、私の住む地域で唯一日本語が勉強できる大学に入り、日本の文化や歴史、経済について勉強しました。その後、大使館の試験を受けて文部科学省から許可をもらい、日本の大学に行くことになりました。そして国際ビジネスが学べるような大学を数校ピックアップし、各大学とメールでやりとりする中で、関学が最も自分の希望に合う勉強内容であったことから関学を選びました。また、インターネットでも関学のキャンパスやゼミ生のページを閲覧し、環境でも素晴らしと感じました。

**春木** ロシアの大学は4年制ですか。

**キセリヨフ** 5年制です。ロシアでは日本について教えてくれる先生は少なく、教科書も2冊しかないのです。日本語を勉強するには大変な環境でした。また私の大学では交換留学先が韓国だけでしたので、韓国の大学に入り、日本語を勉強していました。

**春木** 韓国に行つて日本語を勉強するというのは珍しいですね。レファンさんも大学は違うところで学び、大学院として関学を選ばれたのですね。

**レファン** 日本へは、まず園田学園女子大学に留学し、日本の言語や文化を勉強しました。卒業してからは日本の経済や文化だけでなく農業技術、そして地域ブランドについてもっと勉強したいという気持ちが生まれ、関学の大学院に進もうと決めました。今所属しているゼミの和田先生はマーケティングや地域ブランドの研究に取り組まれているので、とてもためになります。また私はカトリック信者なので、キリスト教の雰囲気は漂うキャンパスも魅力の一つです。

### 関学の良いところ・残念なところ

**春木** 関学に来て良かったこと。あるいは残念に思うことはありますか。

**ドウリ** やはり英語と日本語が同時に勉強できるところが良いです。残念に思うのは、日本人学生と一緒に授業を受ける機会が少ないこと。交換留学生の場合、日本語の授業は交換留学生同士で受けます。ある一定の日本語レベルに達し、テストに合格しないと一般の日本人学生と同じ授業を受けることができないのです。今、交換留学生は約80人いますが、その中でテストに合格して一般授業を受けている人は4名のみ。授業を通して、日本人学生ともっと交流できるようになれば嬉しいですね。

**春木** 大学側もなるべく日本人学生と交換留学生と一緒に授業を受けられるよう、たとえば英語で行われている授業に対し、英語レベルの高い日本人学生が受講できる制度を設けています。これからも交換留学生と日本人学生と一緒に勉強できる機会を増やすよう検討していきます。

**レファン** ゼミの先輩や友人はとても親切で、授業の履修方法や勉強の仕方など何でも相談できます。先日、東京大学主催の「留学生文学賞」に応募するため日本語で小説を書いたのですが、あまり自信がなかったのですがゼミの仲間を読んで



キム・ドウリ





パオカン・レファン

もらい、色々アドバイスをいただきました。今、二次選考を通過し、次の最終結果を楽しみにしているところです。

**キセリヨフ** 関学に来て一番良かったのは周辺環境です。関学は、神戸、大阪、京都、奈良の真ん中にあり、とても便利です。

困ったことは、交換留学生という日本語パートナー制度が正規留学生にはないので、入学時は大学生活が少し不安でした。幸い、寮の友人が相談にのってくれたので助かりました。

**春木** 英語に比べて日本語は難しいと思います。ですが、いかがですか。

**ドウリ** 外来語が難しいです。英語をカタカナに変えると、本来の発音だけでなく意味も異なってしまう場合が多いので。  
**エンジェル** 敬語が難しいのですが、逆に話す相手によって表現が細かく変わると

ころが面白いです。今一番大変なのは日本語の作文です。書き言葉がすごく難しくて。

**カ** 関学に来て良かったと思うのは、学術的に色々な知識が得られること。中国にいた頃は調査や統計について馴染みが薄かったので、今の授業は大変面白いです。また関学の図書館は、書物の数は充実しているし、勉強する場として非常に良いです。それとキャンパス。友人からも「関学は日本で一番美しいキャンパスだね」と

羨ましがられます。ただ日本の大学は義務教育ではないので、勉強をするのもしないのも個人次第。一人ひとり、時間をコントロールする力が求められます。

**春木** 中国の大学は、日本の高等学校並みに出欠管理が厳しいと聞きます。カナダではどうですか。

**エンジェル** カナダでも周りの友人は皆、勉強を必死に頑張っています。関学の良さは、少人数クラス。特に言語を勉強したい人にとっては良いと思います。残念なのは、先ほどドウリさんも言われたように、せっかく日本に来ているのに日本語で授業を受ける機会が少ないこと。留学生の日本語レベルの問題もあります。もともと日本人学生と一緒に授業を受けられれば

良いですね。

**春木** 語学レベルに差があると、どうしても下のレベルに合わせなければならず、結果、授業内容が簡単になってしまします。逆に難しくすると、途中でドロップアウトする学生も出てきます。将来的には、留学生と日本人学生が共通に関心を持つようなテーマ、たとえば異文化交流を主題とするゼミによって、双方が机を並べて学べる環境になれば良いですね。

### 日本人学生との 交流を深めるために

**春木** 皆さんは今、日本人学生とどのよう交流されていますか。

**キセリヨフ** 私は大学院の授業だけでなく、3・4回生のゼミの授業にも時々参加



エフゲニー・キセリヨフ

しますが、どちらかといえば、関学の学生より兵庫国際交流会館などで会う他大学の英語のクラブの学生との交流の方が多いです。

**ドウリ** 基本的に韓国人は、日本人に比べてすぐに他人と仲良くなります。日本人は、どこか見えない壁があると言いますか、深い友人関係を築くには少し時間がかかる気がします。それが悪いということではないのですが。

**エンジェル** その気持ち、わかります。昨日「コーヒアワー(※2)」に参加してきましたが、その場で色々話しても、その先の付き合いいまではなかなかいきません。一方で私は2つのサークルに入っていますが、ここでは深い人間関係が築けています。

**レファン** もっと積極的に遠慮なく、国と国を超えて色んなことが話せたらいいなと思います。

**カ** 私も他の日本人学生とゼミや授業で会話することは多々ありますが、本当に親友と呼べるのは一人だけです。しかし、私自身の接し方やコミュニケーション力不足もあつたのではないか。あるいは、日本ならではの接し方があるのではないのでしょうか。

**春木** 多くの日本人はまず表面的なお

付き合いから入ります。そして親しくなっても、ある程度の距離を置くのが一般的です。ですから留学生の皆さんも、日本人は母国の人と接し方が違うことを理解し、交流を深めるよう頑張ってください。

### 関学留学生それぞれの夢

**春木** 最後に、皆さんが関学への留学を生かして今後どういう進路をめざすのかについてお聞かせください。

**エンジェル** もっと日本語能力を磨いて日本語を使ったビジネスに携わりたいです。まだ具体的な進路は決まっていないのですが、通訳などに興味があります。

**カ** 中国で社会学が学べる学校は、香港、マカオを含めて11校だけです。私は社会学者になって、中国の社会学の発展に

貢献したいです。

**レファン** 卒業後は、農業や食品メーカーで働きたいです。大学で勉強したことと、実務として農業や食品に関する知識をもっと身につけて、それをいつか自国で生かせられたらと思っています。日本で就職しベトナムに行くことができれば、そういう日本語を話す機会もあるし、そういう方向へ向かっていきたいです。

**ドウリ** 将来は、日本やアメリカにある韓国大使館で働きたいです。

**キセリヨフ** 卒業後は日本で少しビジネスに携わりながら知識と経験を生かし、日露関係の文化を背景に、多国籍企業に入つて日本とロシアのビジネスの架け橋になりたいです。

**春木** 皆さんそれぞれ日本語が上手ですし、ぜひ関学卒業生としてグローバルに活躍していただければ、こんなに嬉しいことはありません。ぜひ、頑張ってください。ありがとうございます。



シュ・カ

※1 日本語パートナー制度

交換留学生のために日本語学習、留学生生活を補助するボランティア学生の制度。

※2 コーヒアワー

海外からの客員教員や留学生との交流を目的として、年6回程度開かれる懇親会。